



歌囊井蛙談
下

中村俊定文庫
文庫 18
1011
3



歌囊并蛙談卷之下



○益軒翁云款冬款者至也至冬而花咲故名
 ツク宗奭曰百草中惟此不顧冰雪最先春也
 弘景曰腹裏有絲云花未全同採テ可用
 本草ニモ如此云リ狀モ本草綱目ニ款冬ノフキ
 ナル莫分明ナラス時珍カ食物本草ノ註ヲ見ル
 ニフキナル莫與疑食物本草註云生ニ水傍
 洞ノ間ニ紫似葵而大ニ根紫色十二月開ク黃花ヲ
 青紫萼ト公ト一ニ二寸初出如菊花萼通直ニ
 而肥實無子百草中惟此不顧ニ冰雪ヲ最

先春也雖在冰雪中至時亦生芽春時人采以代蔬香美極テ可口又案救荒本草ノ説モ亦フキナリ○根ノ味苦シ國俗初生ノ小兒ニキリノ根生ナカラ刻ニ黃連甘草ニ加テ沸湯ニテフリ藥ニレテ吞シメ口中ノ惡物ヲ吐出サシム中夏ノ書ニハ未見之○性早ヲ畏ル樹下陰地ニ宜シ肥地ニウフレハ長大也莖ヲトリ煮テ皮下絲トヲ食フス紫初生小ナルヲ錢フキト云可食又花ヲ食フ凡フキ性微冷血毒忒腹中邪熱ヲ消ニ瘡腫ニ利ニ小便○久嗽ニ款冬花ヲ乾シ火ヲツケ管ヲ以烟ヲ吸ヒ滿レ口飲レ之ヲ毎日五七度ノムベシ此

説本草ノ款冬ノ説及序例ニ出タリ烟草ヲノムガ如クニスベシ入門曰花半開者良シ又花ノ未ノ開ヲ取テ生ニテスリクダキ未^ニ醬^ニセテ煖メ食ス味美シ順僂各抄款冬ニヤ^ニフキト訓也朗詠集亦同

○忍菴翁云款冬フキノトウ半含半開ノ時採之ヲ^シ開キ盡スモノハ氣力脱ス臘未春初^ニ可採^レ收^ム和書ニ山吹ト訓ス絶テ誤レリ四條大納言公任卿朗詠集ヲ撰シテ款冬ニ^シ山吹ト訓スルヨリ誤レリ山吹ノ若ハ實ヲ水フキト云ニ對シテ呼フ名ナリ款冬金椛棣共ニ山

フキノ細アリ故ニ誤リ混稱スルノ三餘醜ヲ山
吹ト訓スルハ非ナリ醜醜ハトキンイバラト云モノ
ナリ其花有ニ白黄紅ノ三種一汝南園史金
櫟ノ下ニ葉似ニ醜醜ノ形ヨク相似タリ
花亦黄ナリト云ヲ以誤テ山吹ト心得名物ナルヘシ
○本朝食鑑云路音ハ路訓ニ布木一釋名和名
布布木本朝式内膳部訓ニ布木一令俗訓ニ布
木ト花訓ニ布木乃登宇集解源順曰崔
島錫食經謂落葉似葵而圓廣莖者可
噉之今時花莖葉俱可作蔬茹冬十二月
宿根開花正二月最盛初出地時如小蓮

其蒼漸開青黄外有紫萼一本土一三寸亦
如小蓮花開而重重作莖俗號落莖言
相魚貌耶經六七日而碎死候其花盛
采之入藥作蔬者未開亦佳三四月生葉
莖俱似小荷或如葵葉其莖亦似小蓮
莖有竅有絲形圓通直而肥實無子高
者二三尺一莖一葉至根邊紫白色處處
林野田圃家園俱叢生少則可愛爾○
氣味苦温無毒莖葉亦同主治温肺治嗽消
痰洗肝明目及療中風等症
○恕庵翁云府志ノ書及致富奇書ニ棣棠花

アリ此乃^レキヤ^ニブキナリ公任卿ノ朗詠集ニ款冬ノ
字ヲ用ユルハ非ナリ棣棠唐棣名ノ相似タルヲ
以テ混スヘカラス

○或説曰橐吾和名ツハ漢史游急就章ニ
見タリ李時珍誤テ款冬ノ一種トスルハ甚誤也
顔師古註云橐吾似^ニ款冬^ニ而腹中有^レ絲生陸
地^ニ華黃色一名獸須此草庭中ニ植テ常ニ見
ル吐血ノ愁ナシ丸款冬ト橐吾ト花不同時候
款冬ハ冬ヨリ春ニ及ヒ橐吾ハ秋花ヲヒラク
モノナリ混考スヘカラス大和本草ニ委ク載ス
故ニ略之○^{ゴヤラキ}餘^ド醜^ヒヤ^ニブキト訓スルハ非ナリ葉ハ

草イキゴニ似タリ蔓ニ非ス莖ニハリ多シ莖^ガアリ
二年ヲ經テ後莖老タルハ枯ル早ク刈ヘシ根ヨリ
苗多ク生ス花白ク千葉ナリ菊ノ如シ三月ノ末花
サク初ヒラク時少青色ヲ帶フ後ハ全ク白シ春花
ノ終リナリ故ニ王^ノ慕^カ猗^カ詩ニ曰開^テ到^ニ醜^ニ醜^ニ
花事^ヲ了^ル京大坂ニテハコヤヲキト云江戸ニテハホ冬
ハナト云筑紫ニテハ菊イバラト云薔薇ノ類ニ非ス
又淡紅色ナルアリ甚美ナリ稀ナリ中華ニ黃色
アリ農政全書ニ記セリ故ニ黃色ノ^ニ醜^ニ醜^ニ
醜ト云日本ニテ山川ト云酒ノ如クナランニ^ニ文^ニ圖^ニ會
曰又一種色黃^ニ似^ル酒○金棣棠和名ヤ^ニ

フキ明、周文、翠カ致、富全、書云、叢生、二月中
 開ニ黃花一花如、垂絲、海棠、名テ曰、金棠、棣、
 吾邦、昔ヨリ、款冬ノ字ヲ以テ、山吹スルハ、誤山吹、
 金棣棠ナリ、款冬ハ、食用ノフキト云モノナリ、又
 茶藤ヲ以テ、山吹トスルモ、非ナリ、山吹ノ中ニ、
 種單瓣ノモノアリ、是即群芳譜及ヒ明王
 璐カ遵カ花史、左、纏清、沉賦、名花譜等所
 謂金、藍喜水トスルモノナリ、又一種白花ノ
 モノアリ、名テ銀棣棠ト云、詳ニ洛陽、名園記ニ
 見タリ、昔ヨリ本邦ニ白山吹ト云モノアリ、窮郷
 便方所謂鷄麻ト云モノナリ、花四瓣ニシテ、

山吹ノ類ト、大キニ異ナル物ナリ、花根ノ後、黒
 實ヲ結フ鳥羽、實ノ如シ吐血ノ妙藥ナリ、
 ○益軒翁云、棣棠園史及允齋花譜ニ
 其形狀詳也、疑モナキ、山吹ナレハ、爰ニ詳ニ記
 サス、遵生八牋ニモ載タリ、名花譜ニ、ワカ枝ヲ折
 テ、扱メバ、生ト云リ、八重ノ花尤、賞スヘ、日ヲ畏
 ル日本ニ昔ヨリ此花ヲ賞シ、古歌ニ多クヨメ
 リ、山州并午ノ山吹、尤名アリ、今ハナシ、又一
 重アリ、山中ニ生ス、金、椀喜水ト、漢名ヲ緇メ
 又白花ノ一重アリ、黃花ニ劣ル、是ハ棣棠ト一
 類ニ非ス、實アリ、花ハ似タリ、順和名、款冬ヲ

ヤフキト訓不朗詠集ニモ款冬ヲヤフキトス
 皆誤レリ萬葉集ニハ山吹ト書リ 醜醜ヲ
 ヤフキト訓スルモ亦非ナリ醜醜ハコヤラキナリ
 ○言滿按契沖多順和名集云任卿乃朗詠
 集乃誤なる夏を論以貞徳多款冬を我
 朝多冬た山吹乃夏なりや記之季吟を
 從之契沖多其證を舉て論之彼を一事
 貞徳多季吟を和名及朗詠乃誤をた
 らけく記以是を一事なり是の多は杜若
 水雞乃類歌の題子誤事多一吾退る
 是を思ふ只詠物の上にて是る時を違ありと云

古老乃用來まる處を按乃あるに用く不改
 空をありなる雖狀醫家者流におおて
 不論之もあふゆめは其病を見く主治
 未詳人乃命子あはかる夏容易子すゆ
 かはは一大事乃義多を精く論はる
 事宜なり沖子論を物産者乃論に
 近く松北乃西氏説を誤をなが傳る
 り如一吾彼是を合考はる子其出處を
 たして後古來如是詠來まる故に
 其分たるゆきなる今人亦其好
 處子可從子あはるや仍吾物産に精

古老乃説を擧ぐ後子亦乃義を述る
 他乃非を改已云處を是也後子亦
 あくひん○篤信先生云久嗽ニ款冬花ヲ
 烟草ヲ吞如クスレハ治レ之則本草ノ説ナリ
 秘大先生云款冬温肺ヲ治嗽ヲ消痰云
 狀子ハ契冲款冬乃註解子咳嗽治否
 未タ知也ゆゆ多篤秘西老生乃説を安
 たりやして不用款又不見及款和漢
 計説あり今を用く其志ありあくひん也
 ○蒙吾或説ニ和名ツハ此草庭中ニ植テ常
 ニ見レハ吐血ノ愁テシ國俗石落ト糝メ水盥

ノ邊ニ植テ愛スル物アリ言按ニ是也葉乃
 厚き故子アツバフキもや又椿を本邦に
 ツバキ也訓は多を非なり山茶也日本紀
 天武天皇十三年三月吉野人宇閑直弓
 貢ニ白海石榴延喜式子モツバキを海石
 榴也かたり酉陽雜俎續書曰山茶似海
 石榴狀者別物也順和名抄に其葉厚
 アツバノ木ト云意多り益抄藤毛計説子同
 是子たくゆくおもふんあはるぬき款又常
 に水鉢乃下子植く吐血乃愁なり也云に
 よしんは草子唾を吐事を知りた人

にすまじき人益あはるる故に嗤^ハ云^ハ嗤^ハ云^ハ
云意子付たる歎是今令^ク臆見^ル也^ハ也^ハ
次子記之

○歌囊井蛙談附録

○芭蕉^ノ末弟破笠後改^ニ笠翁^ト號^シ夢中
庵^ト是^レ也^ハ李笠翁^ヲ慕^リ、^ト名^ヲ得^タる^ハ歎
牡丹花老人^ヲ夢庵^ト稱^スはる^ハ故^ニ出
る^ハ義^ナり^ハ漢土^乃人^也同名^ナる^ハ事^也
の^ハ海^也又^ハ松^ノ一^ノ木^ナキ^ハ也^ハあり^ハん
本邦^真名^ナる^ハ人^也也^ハ子^故ある^ハ名^也を^ハ
少^ハ野^俗乃^ハ用^由ゆ^キに^ハあ^ル其^謂を
あ^ル論^子の^ハ以^ハゆ^キ
山笠翁^ハ年^頃子^哥袋^を調^トて^ハ知音^ニ

贈る米素人女が細工者をして其頃乃人の玩物に
けし心子任く作り出は臨時乃玩物乃は是をみ
一際目驚くは類實法子あるは稚兒乃戯と
云ふ一今思ふに其作る物半元胡粉也也
形是たる者深ありか乃等存く作る哥袋ハ銀
たみしぐ草花也也紙紋画たる其形定り
たる夏衣もねえ是を亦みく一染等々書
記一作り置たる夏衣今所々擧て云ふも
好や信之ヲ早俗もあるによりて本様
はる夏衣をよりへて載る見る人等乃意
得るも云一

紫蝶賞
水陸蛙

花子啼鶯水子住蛙乃聲をきけえ
や一以たるその以はをく哥袋より
と多貫之大人乃水燕の跡あり
今所々以る也くもあはれんを
かゝるその紫乃道を学はあはれ
はあに藤原爲顯乃姉の哥袋也
云と乃あり古老乃説を合考一
或も考證しあはれぬも今案

にあつてはや忘るるに古今集真名序に
ある處乃秋蟬之吟樹上ハ吟云をわたりて
よめる歌吟之見あはれは巧拙子
かたはるはたむかひを述る

木くくくく鳴いんくくくくく
みちいあるを乃友やあききけ

千取寶曆十一辛巳秋九月下旬
濱頼蛩子百庵言滿漫書干
東都日本橋南長者逕新柳亭

歌囊并蛙談卷之下終



歌林記識論 一冊
短冊板屋鈔 一冊
歌囊并蛙談 三冊
燧袋花鶯談 一冊

百菴先生著述

寶曆十一載辛巳九月日

日本橋南二丁目

東都書林

橋本町二丁目

須原茂兵衛

近江屋源七

